

洗剤の吸着、脱着について考察したが、今回はモノゲン、ミケソープの代りにドデシル硫酸ソーダ、ドデシルベンゼンスルホン酸ソーダを使用して実験した。結果は大体前報と一致する。また別に、放射性  $S^{35}$  を含むこれ等活性剤を用意し、上記非放射性活性剤による場合同様に処理して羊毛試料布を作り、その放射能を測定した結果は、相当の吸着量を認めた。この両実験の結果より羊毛布に硫酸エステル塩またはスルホン酸塩の吸着は相当著しく、水洗によっては容易に脱離せず、これが食害試験に顕著に示されるものと考えられる。詳細は数値をあげて説明する。尚ミチン防虫加工モスリンに洗剤処理を施したものについて実験の結果、モノゲン、ミケソープ処理は殆ど食害は無く、マルセル石鹼処理は著しく食害を受けた。また CMC, PVA (ゴーセノール) で糊付けしたモスリンについて実験の結果は何れも相当の食害を受けたが特にゴーセノールの方が食害が大きかった。

#### 74 被服の虫害に関する研究(第4報)ヒメマルカツ オブシムシの羊毛布における虫害と洗剤処理の関 係

熊本大教育 谷川美知子

前報において、洗剤処理と食害の関係について、モノゲン、ミケソープ及びマルセル石鹼処理布の食害実験の結果から、洗浄並びにすすぎの諸条件におけるこれ等の